

## 平成4年度 第2回西区自治協議会会議録

日時：令和4年5月31日（火）午後3:00～

会場：黒崎市民会館 ホール

（伊藤補佐）

本日はお忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。ただいまから、令和4年度第2回 西区自治協議会を開会します。本日の出席委員は通常参加27名、リモート参加0名、計27名の予定であり、新潟市区自治協議会条例 第9条 第2項の規定を満たしておりますので、本日の会議が成立していることを報告いたします。なお、本日の会議について、会議録の公表にあたり、正確性を期すため、会議の内容を録音させていただきますことをご了承いただき、またご発言の際に、所属、お名前をお知らせいただきたいことを、あわせてお願いさせていただきます。本日の会議は「新しい生活様式」に基づいた新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮して開催いたしております。皆様からはマスクをご着用いただき、職員もマスクを着用したまま発言させていただきます。

なお会議中、途中で気分の悪くなった方など、いらっしゃいましたら、遠慮なく職員にお声がけください。

それでは資料の確認をさせていただきます。事前に配布いたしました資料は次第と資料1から資料8です。本日お持ちでない方、いらっしゃいますでしょうか。

では続いて、本日配布させていただきました資料の確認をいたします。まず一番上が座席表となっております。一部レイアウトが若干変更しておりますが、現在こちら事務局が、こちら的前方におりますので、そちらの変更をご了承ください。続きまして、次第の差し替えをお願いいたします。配りました資料右肩上に「差し替え」と記載のあります資料と、事前にお配りしました資料の差し替えをお願いいたします。

次に当日配布資料1「西区自治協議会運営会議の会議概要」となります。続いて当日配布資料2「西区区ビジョンまちづくり計画 第4次実施計画進行管理表（令和3年度実施事業）主な取り組み（抜粋）」となります。資料の確認は以上となりますが、ご不足等ありますでしょうか。

では本日、今回の本会において、報道関係者から取材の申し出がありました。許可したいと思いますがよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

（伊藤補佐）

ありがとうございます。最初に、今回今月の西区自治協議会に出席しております朝妻副市長から皆様にご挨拶申し上げます。

(朝妻副市長)

改めまして、皆様こんにちは。西区を担当させていただいております朝妻でございます。本年度2回目の自治協議会ということでご挨拶を兼ねましてお邪魔させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。感染症の状況につきましては、ご案内のとおり、なかなか明確な出口が依然として見えないという感じではございますけれども、3回目のワクチン接種が一定程度進んできたのと、医療にかかる負荷が限定的であるということで、もろもろの制限が緩和の方向に向かっております。今後は経済再興に向けて加速化が進んでいくということなんでしょうとっております。

一方で世界情勢とか、いわゆる物価の上昇とかということが起きておまして、これに対応するという必要もございまして、今後になります。6月議会のほうに本市といたしましても、国の財源を使った対応策を提案していきたいと考えております。

ご案内のとおり、今年には総合計画の策定年度でございます。皆様にも区ビジョンの関係でご協力をいただいております。大変ありがとうございます。今回の策定手法がバックキャストというので、2040年ぐらいをイメージして、そこからさかのぼって、今何をやらなければいけないかというのを考えるというやり方でございます。計画期間が8年間ということでございますので、8年後、2040年ぐらいを想像するというのは、今の情勢ですと非常に難しく、なかなか明るい展望を持ちにくい感じではありますけれども、必ずしも右肩下がりの時代が、希望が全くないということではないと考えておりますので、明るい未来に向かって、何ができるかということ議論させていただければと思います。

また当然のことながら、西区独自の地域課題というのもたくさんあると思いますので、その辺は区役所と一緒に、皆さんと意見交換をさせていただきながら対応していきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(伊藤補佐)

それでは、本日の次第5 その他 副市長との意見交換ということで、のちほど時間も設けさせていただいております。よろしくお願いいたします。これ以降の議事進行につきましては、大谷会長にお願いいたします。会長、お願いいたします。

(大谷会長)

それでは議事に入りたいと思います。議事の(1)新潟市総合計画審議会委員の推薦についてであります。資料1に基づき、高山地域課長より説明をお願いいたします。

(高山地域課長)

それでは説明させていただきます。新潟市総合計画審議会委員の推薦についてということで、資料は1番になります。本件に関しまして、本庁、政策調整課より、各区の自治協議会宛に委員の推薦依頼がありました。これは市政運営における最上位計画であり、これ

からのまちづくりの方向性を示す次期総合計画の策定にあたり、有識者や地域の代表、公募市民などからご審議いただくために、各区自治協議会からも委員に就任していただきたいというものでございます。

本委員会は、各自治協議会から推薦される委員のほか、学識経験者や各種団体、公募委員など、45人以内で構成されます。政策調整課からは、各区の自治協議会から選出する委員につきましては、地域の声や意見を会議の場で発言してほしいという要望をいただいております。この依頼を受けまして、委員の選出、推薦にあたり、西区自治協議会運営会議へ意見を求めました。運営会議からは、これは総合計画の審議会なので、しかるべき発言ができる方がよいのではないかと、また地域の事情に精通している方がよいのではないかとというご意見がありました。

運営会議のまとめとしまして、自治協議会委員の経験も長く、さまざまな会議の委員就任経験もある大谷会長が適任ではないかという意見となりました。新潟市総合計画審議会委員の推薦依頼および運営会議の意見については事務局からの説明は以上となります。

(大谷会長)

ありがとうございました。それでは運営会議の意見として、私をとということでございますが、皆様のご意見をお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

(大谷会長)

異議なしということでございますので、僭越ではございますが、私が出席をさせていただきたいと、このように思います。事務局は推薦手続きをお願いいたしとうございます。よろしく願いいたします。

次に議事の(2)区自治協議会提案事業「環境美化企画書(案)」についてであります。なおこれ以降の議事の(2)から(5)にあつては、部会並びに運営会議での審議を踏まえて作成した企画書案となっておりますので、部会の状況報告のそれぞれの会議概要とあわせてご説明をお願いいたします。

それでは岩沢第1部会長より、部会の状況報告とあわせて説明をお願いいたします。

(岩沢委員)

第1部会の岩沢でございます。それでは今会長さんからお話がありましたように、部会の状況と企画書をあわせて説明をさせていただきたいと思っております。従いまして、資料2、資料6になります。最初に資料6をめくっていただけませんかでしょうか。

第1部会は初めての方もいらっしゃると思いますので、所管分野をあえてお話ししてみたい。防犯・防災・自然環境・住環境等が私どもの部会の分担であります。第2回、5月11日3時から4時40分まででありましたけど、対策室で会議がありました。出欠につき

ましては下記のとおりでございます。

最初の1つは令和4年度の自治協議会提案事業「環境美化企画（案）」についてお話がありました。本来ですと、地域別でということもあったんです。例えば黒埼、坂井輪、そして西区という3部門で実施しようかということだったんですけども、それも時間差をつけて、最初は黒埼、その次が坂井輪という感じで、ある委員からやるなら一斉にという話がありまして、従ってここに書いてありますように、地域じゃなくて一斉にやるということに相なりました。

点線の四角を見ていただきますと、パートナー制度、それから区民個人の2つに分かれました。パートナー制度におきましては、募集期間は7月1日から7月31日、1カ月間募集をしましょうと。そして事業期間は8月から12月という話があったんですけども、雪等々で11月に前倒して、8月から11月ということに決定しました。先ほど言いましたように地区じゃなくて範囲ということで、海岸、高速道路、新幹線、県市道沿線、さらには佐潟、そして最後は西バイパス側道をしようということでした。一般の個人の所、自治会等はそれなりの整理しておりますので、あえてこの範囲で決めさせていただきました。区民におきましては、イコールこの記載の期間で募集をすることに相なりました。そのようなことで、今後はチラシ等々ですということに相なりました。

その他につきましては、犯罪等々になりますが、相変わらず西区も多いですねという話です。今回は6月9日です。

そして資料2を見ていただきたいのですが、重複をしますけれども、目的、対象、対応ということで出してみました。目的はご覧のとおりごみを拾う人を増やすということが大きな狙いでありまして、それから対象につきましては、先ほども言いました事務所、さらには個人という2つに分けました。

3つ目の対応地域は今ほど言いましたように、7月1日から31日で募集をする。そして活動期間は8月1日から11月30日とこのようになります。範囲については言いましたので省略します。従って、このようなおりで、私どもは手袋とか、毎月10枚のオリジナルごみ袋を配布します。これはあくまでも募集して、結果的に出された方の所に対してそうしますということでありまして。

パートナー団体の時は、ホームページや西区自治協議会広報紙に掲載して、高めるといふのが大きな狙いでありまして。

2番目に「区民できれいな西区を未来に残そうプロジェクト」ということで、これもホームページ、SNS、さらにはダウンロードをしたりして、ハードルを上げようということにしております。私のほうからは以上です。

(大谷会長)

ありがとうございました。ただいまの説明について、ご質問等はございませんでしょうか。よろしいですか。

ないようですので、それでは令和4年度区自治協議会提案事業「環境美化」をこのとお

り進めていただいでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

(大谷会長)

ありがとうございました。それでは部会長を中心にご準備をお願いいたしたいと思います。

次に議事の(3)区自治協議会提案事業「魅力の発掘企画書(案)」についてであります。岩脇第3部会長より、部会の状況報告とあわせてご説明をお願いいたします。

(岩脇委員)

部会の状況報告とあわせて報告をさせていただきます。資料3と資料6をあわせてご覧ください。それでは資料6の部会の報告から進めたいと思っております。私の所管分野は産業・区の魅力発信・交通等でございます。日時、会場は省略いたします。出席者も省略いたします。それで概略しまして、令和4年度の提案事業についてはこの後に説明させていただきますと思っております。

2の魅力発掘作業、グループワークですね。これは2班に分かれて魅力の発掘作業を行いました。西区ガイドマップを用いて地図に書き込む形で魅力の書き出しを行いました。委員からは下記の意見が出ました。西区ウオークのコースの景色がよい。JRは20分に1本と、便利である。大通川の桜はすばらしい。パッチワーク街道が素敵である。中央環状線が整備され、交通環境がだいぶ良くなってきておる。みどり森の運動公園では、バーベキューができるが、西区ではここ以外にできる場所がない。どの地域にも盆踊りがあったが、最近人口減少およびそういった高齢者の方々が少なくて、やる人がいない。祭りなどの伝統文化が失われつつある。と、いろんな地域の課題のご意見が出ました。それでいただいた意見を参考にして、来月は再度、魅力の可視化作業を進めることにいたしました。

それでは続きまして、提案事業の説明をいたしたいと思っております。資料の3を見ていただきたいと思えます。部会内で承認を得た企画案を、資料3としてお配りしていますので、そちらをご覧くださいと思えます。

本事業の目的ですが、西区に在住するさまざまな魅力を掘り起こし、西区を好きになってもらい、住み続けることを目指します。現在は西区民だけでなく、将来の西区民になり得る人たちも事業対象にしています。

事業の概要は、まずグループワークを通じて西区の魅力を洗い出し、地図上に落とし込み、可視化作業を行います。可視化した魅力をもとに、私の3部会として魅力を考える際の方向性の整理を行い、魅力の深掘りや、深掘りをした魅力を伝えるために次の手段を定め、発信していくつもりでございます。

そのほかにアートフェスティバル等を通じて区の魅力マップの掲示やアンケート等を掲示することを予定しております。本日はこの部会案に沿ってご承認いただきたく、お願い

いたします。

それで魅力発掘ということで、経済が相当疲弊しております。皆さん方もよく分かっていると思うんですけどね。相当物価指数が上がっております。コロナ、コロナとやっておりますと、やはりバランスを取って経済活性しないと、地域の商店街、商売やっている人が疲弊しているのが現状です。そここのところが私どもとして、どういう形の企画書、また区民にどういう風にPRして、要は共存していけるような形にするように、私は進行して進めていきたいと思っております。

いろんな手法はあると思うんです。今一番何が大事かということで、皆さん方と協議をして、まず＝まちづくりの発掘＝ですね。それが重要課題と思っております。具体的に言うと大野町。これと黒埼と内野ですね。そこを重点的にやらないと、そして優先順位を付けてやらないと、両方ともやってしまうと共倒れになるということで、部会には言いますけどね。ご意見をお願いしておりますので、また皆さん方、企画書もあれとして、ご意見がありましたら、私どものほうにご意見をくだされば、一番ありがたいなと思っております。私からの報告は以上でございます。

(大谷会長)

ありがとうございました。ただいまの説明について、ご質問を受けたいと思いますが、いかがでしょうか。

ないようですので、それでは令和4年度区自治協議会提案事業「魅力の発掘」をこのとおり進めていただいてよろしいでしょうか。

ご異議ありませんね。それでは部会長を中心にご準備をお願いしたいと思います。

次に議事の(4)区自治協議会提案事業「西区アートフェスティバル企画書(案)」についてであります。田中アートフェスティバル特別部会長、高橋直子副部会長ともに本日不在のため、副会長の風間委員より部会の状況報告とあわせてご説明をお願いいたします。

(風間委員)

今、大谷会長からお話しがありましたように、正副部会長が不在のため、私、風間から説明をさせていただきます。部会の状況報告もあわせて報告をさせていただきますので、資料4と資料6をあわせてご覧ください。それでは最初に資料の6に沿って説明をさせていただきます。令和4年度第2回会議は5月19日に開催をされました。出席者等については記載のとおりでございます。

1番の出演団体についてでございます。実は去年はコロナということで、音楽・芸能部門の予定の7団体が、結局出演がかなわなかったということがあります。それを考慮しまして、今年度の音楽・芸能団体部門については、4月の部会で去年の7団体にまず優先して出演をしていただけるかどうかを事務局から打診をしていただきました。その打診の結果でございますけれどもそのうちの5団体からは出演を承諾いただきました。ただ残りの2団体については、部会内でもう一度選定を行いまして、事務局からまた再度打診をして

いただくということにいたしました。

続いて2番の企画書(案)についてでございます。4月部会での議論を反映した企画書(案)について事務局から説明がありまして、審議の結果、企画書(案)のとおり進めることといたしました。審議の際に委員から出された主な意見は、音楽・芸能団体部門の昨年はなかったということを行いましたので、今回は音楽・芸能団体部門が予定どおり出演をしていただけるということになりますと、昨年アート部門でその部分を展示スペースに使っていたんですが、アート部門の展示スペースをどのように確保するかというのが、大変重要なこととなりますので、その辺の確認をする必要があるということですね。

それから昨年からですので、言葉としてはなかなかなじみがないのですが「おん×テック」、音楽と技術と言いますか、テクニックの意味だと思いますが、新潟大学の工学部の方を中心に、音楽とそれからパソコンとかそういう技術的なものを使って、私たちこういう会場で音楽というと、まず聴覚に訴えて聴くというのが主になりますが、視覚に訴えたり、そういったものをあわせて、今で言うと音楽とそういう視覚とかいろんなものを、技術をコラボすると、そういう部門が「おん×テック部門」ということとなります。

昨年からはじめました「おん×テック部門」は昨年同様に開催時間内の出入りを自由にして開催したいと。私は昨年準備のお手伝いをした後、こっそりと「おん×テック」の少しですけども拝見させていただきました。今までにないような、この部屋がすごくあちこち目が行っちゃうということもありますけど、今までと違うアプローチの仕方でのそういう音楽、芸能に対する取り組みという感じがいたしました。すみません。話がちょっと長くなりました。

続きまして3番の仕様書(案)についてです。事務局より業者委託を行う際の仕様書の案について説明があり、検討を行いました。委員から出た主な意見は、次のとおりです。音楽・芸能団体発表部門をオンライン配信する際は、Zoomだと視聴者の通信状況に左右されるため、そういった状況が起こりにくいYouTube配信を行ったほうがよいのではないか。それから司会のことですが、業務委託、つまりプロの方をお願いするのではなくて、新潟大学の真野委員、いらっしゃいますけど、真野委員がアートフェスティバルの委員もしていらっしゃいますので、真野委員を中心にして司会はやってもらうほうがよいのではないかという意見でございます。

それから音楽・芸能団体発表部門の残りの2団体も含めまして、6月部会で再度審議を進めることとしました。部会内で承認を得た企画書(案)を、資料4としてお配りをしていますので、それでは資料4をご覧くださいと思います。

本事業の目的でございますけれども、これは部会が始まってからずっと一緒だと思いますが、1つは西区全体の文化風土を耕して、区の良さを再確認し、愛着を持てるようにする。2つめ、2番としまして、西区でアートの表現活動に取り組んでいるアーティスト等に発表の場を提供し、幅広く区民から知ってもらう。3番、大学などと連携を深め、学術・文化豊かな西区の魅力を発信するというものが目的となります。

日時、会場は、11月3日が文化の日でございますが、そのすぐ後の土日、11月5日の土

曜午後、それから翌11月6日、日曜日の午前と午後の計2日間。黒崎市民会館、今日の場合ですね。ここで開催をいたします。事業内容でございますが、1つ目に昨年度新型コロナウイルス感染拡大を受け、中止した音楽・芸能団体発表部門です。こちらは先ほどの会議概要で説明しましたが、7団体の発表を予定しております。既に承諾をいただいております5団体は記載のとおりとなっております。開催時間等は記載のとおりでございます。

裏面に移りまして、出演に際しては、交通費相当額と楽器運搬費用を部会内で負担をいたします。各団体の発表者の人数は、ステージの大きさ等を考慮しまして、感染防止の観点から20人程度といたします。

続いてアート部門です。内容は新潟大学工学部によるアート作品、それから小学生の自由研究優秀作品。アール・ブリュット作品。そして昨年も参加をしていただきました新潟国際情報大学写真部の作品展示となっております。開催時間等は記載のとおりでございます。

最後に先ほども触れました「おん×テック部門」ですが、こちらは新潟大学の学生による音楽と工学（テクノロジー）の融合による発表になります。開催時間等は記載のとおりでございます。本日はこの企画書案について、ご承認いただきたく、お諮りをいたします。アートフェスティバル特別部会からは以上でございます。

（大谷会長）

ありがとうございました。大変詳しく説明をいただきました。ご質問はございませんでしょうか。

ないようですので、それでは令和4年度区自治協議会提案事業、「西区アートフェスティバル」をこのとおり進めていただいでよろしいでしょうか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

（大谷会長）

ご異議なしということで、ありがとうございました。それでは部会長を中心にご準備をお願いいたします。

次に議事の（5）区自治協議会提案事業「地域の防災力向上事業企画書（案）」についてであります。高橋伸絵副会長よりご説明をお願いいたします。

（高橋伸絵委員）

よろしく申し上げます。今年度から新たに区自治協議会提案事業として、防災事業に取り組むことといたしました。こちらの事業は運営会議が主体となって企画を行い、事業実施にあたっては、委員全員に参画していただき、会全体で議論する予定としております。企画した事業内容につきまして、運営会議の状況報告とあわせて報告させていただきますので、資料5と当日配布資料1をあわせてご覧ください。



それでは会議の概要についてご説明いたします。開催日・会場・出席者は記載のとおりです。議事の内容です。令和4年度区自治協議会提案事業「地域の防災力向上事業」についてです。運営会議にて企画を進める地域の防災力向上事業について、4月の会議内容をもとに作成した企画書のたたき台が示されました。

示されたたたき台をもとに議論を行いました。委員から出された主な意見は以下のとおりです。読み上げます。

ワークショップの結果をもとに講演会を行うのは賛成だが、実施時期は雪の降る時期を避けたほうがよい。区民に対し、自治協議会が得た防災に関する知識を共有する手法として、講演会への区民の参加を促してはどうか。講演会で勉強したうえで、マイタイムライン勉強会をしたほうが身が入るのではないか。ワークショップで出された不安に対するアドバイスをもらう講演会なので、ワークショップと講演会は別日程で開催のほうがよいのではないか。最初の企画書では、なかなか日程が押しているようだったら、その日のうちにワークショップと講演会を一緒に行ってみてはというような企画も案として出たので、それでこういう意見が出されました。出された意見をもとに修正した企画書を本会に提出することとしました。次回の開催日は記載のとおりです。

そこで今度は資料5を見ていただきたいと思います。修正を加えた企画書（案）となります。目的は全国各地で発生する災害に対する区民の不安、防災・減災への疑問などを少しでも解消することで、いざという場面で区民が迅速に対応できること、命を守る行動がとれることを目指すというものです。対象は西区民全世代です。

概要、災害に対する不安や、防災・減災に取り組む上での疑問など、各委員が所属する団体から吸い上げを行い、委員全体で共有するワークショップを実施する。ワークショップを通じて、区民の抱える防災に対する疑問や不安をまとめ、それに対して専門家による講演を行い、少しでも疑問や不安の解消を図るということです。これを通して得た知識を、どのような手法で区民に共有するかということも、あわせて検討を行う。

4、スケジュールですが、このように5月、6月で、各所属団体に災害に対する疑問や不安を上げていただく。漠然としたものであっても、皆さんで所属する各団体に帰って話し合いの中で上げていただければと思います。7月にワークショップを運営企画します。8月、ワークショップを開催。9月から10月、ワークショップの意見を集約する。11月から12月に専門家よりアドバイスをもらう講演会を開催する。1月から2月にマイタイムラインの勉強会を行う。専門家に関しては、講演会の内容に関しては、パネラーをする参加型にするのか、市民にも案内した有名な方を呼んで、参加を促すような講演をするのか、それもあわせて考えていきたいと思います。

マイタイムライン勉強会に関しては、私の所属母体である西区防災士の会や県の防災士の会がご協力くださるということです。

本日はこの企画書についてご承認をいただきたく、お諮りいたします。お願いします。

(大谷会長)

ありがとうございました。ただいまの説明について、ご質問いかがでしょうか。

なければ、それでは令和4年度区自治協議会提案事業「地域の防災力向上事業」をこのとおり進めていただいでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

(大谷会長)

異議なしということですので、運営会議を中心にして、準備を進めたいと思います。

(高橋伸絵委員)

ありがとうございます。

(岩脇委員)

ちょっといいですか。

(大谷会長)

はい。

(岩脇委員)

高橋さん。

(高橋伸絵委員)

ワークシートの説明をこれからしたいと思いますが。

(岩脇委員)

先般5月、運営会議でも少しご説明したんですけど、5月2日、小針中学校で総合学習、防災教育をやった学習がありこれは高橋さんたちが企画運営したり、防災士の方々が努力してやっておる。講師の方は福島および県の防災士の会とか、5～6人来たんですけど、私、来てくれということで地域で行ってみました。非常に何といたしますか、タブレット端末でやりとりして、板書はほとんど使っていません。だからこれからやっぱりああいう形のワークショップもいいんじゃないかなということで、高橋さん、ちょっとあんた出てなかったんだけど、概略を説明してあげて、参考のために、これいいことだと思う。

(大谷会長)

ありがとうございました。大いに参考にしていきたいと思います。委員の皆さんにお願いするワークシートについて、これから高橋副会長より引き続きご説明をお願いいたします。

す。

(高橋伸絵委員)

今、岩脇委員の言ったのは、福島大学が行っている「さすけなぶる」という避難所で思いやりを持って、人の気持ちになって運営することによってみんなが心地よく過ごせるという、そういう大事なものでした。それでいろんな立場の、いろんなケースのことを、子どもたちがいかにみんな公正・公平に対処・対応できるかという勉強会でした。とても生徒さんのすばらしい発想力がみんな発揮されている事業でした。私も今年は出られませんでしたが、過去2年間ほど関わらせていただきました。

それではワークシートの説明です。皆さん、1枚めくりますと、ワークシートが出ております。これを基に各母体に帰って、皆さん集められる方だけでいいんですが、お話し合いをしていただければと思います。できる範囲でお願いします。時間軸とそれから想定される災害の種類について、地震・水害についてのワークシートを考えました。それぞれの立場になって、ご自身の立場が一番ですけれども、集まった皆さんとでこの誰かの助けを必要とする方の立場、子育て世代の立場、小学生、中学生の立場、そしてまた自分が負っている職責なども考えたうえでの立場で、不安なことや疑問に思っていることなどを挙げていただければと思います。

誰かを助けるというのは、避難行動だけでなく、日常生活に配慮を必要とされる方に対してです。なかなかこうやって書くと、細かくて難しそうには見えますが、お話し合いの中で出てきた意見をみんな挙げていただければと思います。自分だけの立場ですと、このまま皆さんにワークシートを出してしまうと、自分の立場でしか意見が出ないと悪いので、こんなふうにとちょっと4段階の方向から皆さんに考えていただきたいと思って、このようなワークシートを作らせていただきました。6月の本会のとしまでに意見をまとめて出していただければと思います。以上です。

(大谷会長)

ただいまご説明いただいたとおり、ワークシートへのご協力をよろしく願いをいたします。

続きまして自治協議会からの報告の(1)部会の状況報告についてであります。概要を各部長より簡潔にご報告お願いいたします。なお、第1部会、第3部会、アートフェスティバル特別部会は、先ほどの議事の中で報告いただいておりますので、五十嵐第2部長からお願いをいたします。

(五十嵐加代子委員)

2部会の報告をさせていただきます。所管分野、保健・福祉・文化・スポーツ・教育等です。開催日時、会場、出席者等は記載のとおりでございます。主な議事といたしまして、1 令和4年度区自治協議会提案事業「支え合いの大切さ普及事業」について。これは前

回の本会で皆さんに承認していただきました普及事業について、具体的に話し合いを進めてまいりました。まずは1番はアンケートの質問項目についてです。

こちら今日の参考資料の中に、アンケート項目設定についてのたたき台という資料がございます。参考という右端のほうに書かれているものです。このたたき台は、2部会の澤邊委員より提示していただいたたたき台になっております。これを基にアンケートの目的に沿って、皆さんでたたき台について議論をしていきました。

委員から出された主な意見は以下のとおりです。年代を答える部分の選択肢は、アンケートの取り方を決めてから設定したほうがよい。一番若い年代の選択肢は「19歳以下」としたほうがよいのでは。具体的な困りごとに焦点を当てた質問ではないほうがよい。それから標語をより広め、支え合いの意識を持ってもらえることにつながるアンケートとしたい。年代ごとの「こうした支えがほしかった」の声を聞きたい。支える側のみでなく、支えられる側の声を聞きたい。最後、部会としての「支え合い」の定義をアンケートの回答者へ伝える文章を入れるべきなど、たくさんのアンケートのたたき台についての意見が出されました。これはまだたたき台の状態ですので、来月また再度審議することとなっております。

それからワークショップの進め方についてなんですが、ワークショップの進め方については、山賀委員より特別に参加していただきまして、説明をしていただきました。説明に基づき、ワークショップの企画において決めなければならない項目について、また来月審議することといたしました。こちらのアンケートのたたき台についてなんですが、まだまだ検討する余地がたくさんあるものなので、今後2部会のほうでしっかりやっていきたいなと思っております。次回開催は記載のとおりです。以上です。

(大谷会長)

ありがとうございました。続きまして長澤広報紙特別部会長、お願いいたします。

(長澤委員)

すみません。今の第2部会のお話しの中で。

(大谷会長)

質問。

(長澤委員)

質問というか。はい。

(大谷会長)

広報特別部会長の報告が終わった後、2つの部会をやりますので。

(長澤委員)

2つまとめて、承知いたしました。

(大谷会長)

じゃあお願いいたします。

(長澤委員)

それでは広報特別部会、令和4年度第1回会合についてお話をいたします。開催日は5月12日、区役所対策室にて行いました。出欠は記載のとおりです。令和4年度広報紙発行にあたって、制作スケジュールおよび制作方針について話し合いをいたしました。広報紙「西区を豊かに」の制作スケジュールの中で、今までは各委員がそれぞれ掲載の記事、内用について持ち寄りまして、そこで今回はどの内容を載せようかということで話を進めてまいりましたが、今年度については一つ地域の各代表でいらっしゃる各委員の皆さんから、地域のいろいろな出来事や話題などを、一つアイデアとして募集をしてはどうだろうという話がありましたので、本会の前に事前資料として、「西区を豊かに」のアンケートのお願いということで、資料を送らせていただいております。これについては受付前にアンケートを提出していただく箱を用意してございますので、お持ちの委員の皆さんについては、そちらのほうへご提出いただければと思います。

あと各委員からは四角い点線の枠の中の記載事項について、一応話が出ておりました。この中で記事の単発の記載ではなくて、年度3回の発行をいたしますが、3回の発行の中でシリーズを話題にしたものがあるのもよいのではないかという話もありました。あと市で発行している区だよりの掲載と内容が同一にならないような記事を検討して掲載をしていったらどうだという話も出てまいりました。

次回第2回の開催については、6月6日を予定しております。以上でございます。

(大谷会長)

ありがとうございました。それでは第2部会、広報紙特別部会の報告を受けまして、質問を受けたいと思います。それでは先ほどの長澤委員、お願いいたします。

(長澤委員)

ありがとうございます。それでは第2部会のお話の中で、ご質問というか、ありますのでお話いたします。支え合いという話を聞きますと、高齢者、私なんかもうその中に入ってまいりますが、老々介護や独居老人。あるいはお若い方で母子家庭。そういう皆さんについての助け合い、支え合いをどうしても想像しがちなんですけれども、最近話題になっていますヤングケアラーの問題に対しても、この支え合いのいろいろな検討の中に取り入れていただければなと思うんですが、その辺いかがにお考えか、ご質問します。

(五十嵐加代子委員)

ありがとうございます。答えてよろしいですか。

(大谷会長)

どうぞ。

(五十嵐加代子委員)

2部会のほうではアンケートを取るにあたりまして、支え合いについて、どこを私たちが取りたい支え合いなのかということと、毎回非常に深く話し合っておりまして、今回のアンケートの中に、やはりいろんな支え合いのアンケートの意見を引き出すための引き出しとして、もっとこうしたアンケートがいいんじゃないかとか、こういったアンケートの項目を付け加えたらいいんじゃないかという意見がたくさん出されております。

私たちが今日のこの意見をまた参考にしながら、2部会のほうでまた話し合っていきたいと思っております。ありがとうございます。

(大谷会長)

ありがとうございます。長澤委員、よろしいですか。

(長澤委員)

はい、ありがとうございます。

(大谷会長)

ほかにございませんでしょうか。

ないようですので、次に進みたいと思います。自治協議会からの報告の(2)運営会議の状況報告については先ほど企画書の説明とともに報告いたしましたので、ここでは省略したいと思います。

続きまして、自治協議会からの報告の(3)中村委員の辞任についてであります。自治協議会からの報告ではありますが、事務局よりご報告をお願いいたします。

(高山地域課長)

それでは事務局から説明させていただきます。こちら資料等ございませんが、口頭での説明となります。西区自治協議会には、コミュニティ協議会さんをはじめ、さまざまな団体から委員を選出していただいております。この度、坂井輪小・小新中学校校区まちづくり協議会選出の中村健三郎委員から体調不良により、5月末日をもって辞任願ということで提出がございました。従いまして本日付でご退任ということでございます。

なお、任期中で委員に欠員が生じた場合の後任委員の推薦については、前任委員と同じ団体へ推薦依頼をかけることを既に委員推薦会議での座長専決事項としてご承認をいた

だいておりましたので、辞任願を受理したのち、座長に報告のうえ、坂井輪小・小新中学校区まちづくり協議会さまに推薦依頼を行っているところでございます。

後任委員の推薦書をご提出され次第、本会の場にてご報告をさせていただきます。事務局からの説明は以上となります。

(大谷会長)

ありがとうございました。ただいまの報告について、質問がございましたら、お願いいたします。

質問はないようです。なお、5月31日、本日付で退任される中村委員は所用により欠席されておりますので、挨拶は省略をさせていただきます。

続きまして、自治協議会からの報告の(4)区ビジョン策定に係るアンケートについてであります。

こちら自治協議会からの報告であります。引き続き事務局より報告をお願いいたします。

(高山地域課長)

それでは区民アンケートについて、ご説明をさせていただきます。資料7をご覧ください。A4縦のホチキス止めの資料になります。次期西区区ビジョンまちづくり計画策定に向け、幅広い区民の意見を聞くために自治協議会が、これまでの区役所の取り組みへの評価や、これから力を入れて取り組むべき施策分野の設問により、区民の考えを知り、区への意見や、自治協議会の今後の取り組みに活かしていくことを目的として、実施するものでございます。

設問内容等については、自治協議会運営会議で調整し作成をいたしました。まず、アンケートの対象ですが、今年4月1日時点で満15歳以上、66歳未満を対象に、無作為で2,000人を選びます。なお、中学生を対象としたWEBアンケートを別途、こちらのほうは区役所で実施する予定でございます。区民アンケートは紙資料を郵送し、記入、返送していただく予定ですが、インターネットでも回答できるようにしたいと思っております。

続いて、裏面をご覧ください。アンケート項目です。問1～問4は属性を伺うものです。性別、年齢、お住いの中学校区、家族構成を伺い、集計の際にそれぞれ属性ごとに分析できるようにします。問5は今現在の「西区の住み心地」と、問6は「これからも住み続けたいか」を伺うものです。

次のページをご覧ください。問7は現在の西区区ビジョンまちづくり計画における取り組みを列挙しています。区民の皆さんがこの取り組みを重要と考えているかどうかを伺います。区のこれまでの取り組みを評価していただき、今後、どの取り組みに力を入れていくのか、また、見直しが必要なのかを判断する際の参考にしたいと考えております。

次のページをご覧ください。問8は自治協議会の各部会で取り組んでいるまちづくりの分野を列挙してあります。一部、行政のみ取り組んでいるものもありますが、区民の皆さ

んが、まちづくりのために、自分の 1,000 円を寄付する、投資するとしたらどの分野に寄付したいか、また、問9ではその理由を伺うものです。区で自由に編成できる予算としては区づくり予算のみであり、この限られた予算をどの分野に配分すべきかなど、自治協議会として意見をまとめる際の参考にしていただくものです。

次のページをご覧ください。最後に問10では、問8と同じく、自治協議会が行っているまちづくりの分野を列挙し、区民の皆さんが参加したいと思う分野を伺うものです。今後、自治協議会や地域コミュニティ協議会、自治会・町内会で様々な活動を検討する際に、より多くの方から参加していただくための参考としていただきたいと思いますというものです。

最後に設問の内容や選択肢以外にご意見があれば記入していただく「自由記載欄」を設けております。アンケート結果は集計・分析後、ご報告させていただく予定です。説明は以上でございます。

(大谷会長)

ありがとうございました。

ただいまの報告について、質問を受けたいと思います。いかがでしょうか。

質問はないようですので、山賀委員。

(山賀委員)

少し気になった所があったので確認なんですけど、問3で、お住まい、どの中学校区ですかというふうにありますけど、ほかで少し私アンケートとかに携わったときに、自分が住んでいる所がどこの学区か分からないという方とか結構いらっしゃって、特に転居されてきた方とか、高齢の方なども実際そうだったりとかもあったので、「わからない」とか入れないと、無回答が結構出てきてしまうのではないかなというふうな気がしています。

(大谷会長)

事務局、いかがでしょうか。

(高山地域課長)

9番として、「わからない・その他」という項目を付け加えて対応したいと思います。

(大谷会長)

ありがとうございました。よろしいでしょうか。

(山賀委員)

ありがとうございます。

(大谷会長)



ほか、いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

(加野委員)

加野です。問7は西区が進めている主な取組ということで、子どもたち、1番から5番あたりなんですけど、子どもたち、高齢者、障がい者、地域福祉の推進というふうに、福祉もいろいろ書いてあるんですけども、問8とか問10で自治協のところで、5番と6番、子育て支援と高齢者支援しか書いてなくて、それ以外の福祉ってちょっと幅広くて、例えば障がい者の支援とか、自治協でやらないわけではないんですけども、これはあえて入れていないのか、それともわかりやすいようにあえて入れていないのか、それともどこかに包含されるのか、教えていただければと思います。

(大谷会長)

はい。少しお待ちください。よろしいですか。はい、どうぞ。

(高山地域課長)

当初保健福祉ということで、その下の5番、6番は全て含まれた形で設問項目を設けておったんですが、そこを切り離して、5番子育て、6番の高齢者支援は、逆に特出しという形で出ささせていただきました。障がい福祉等々につきましては、4番の保健福祉といったところにするしを付けていただくということで考えております。

(加野委員)

わかりました。ありがとうございました。

(大谷委員)

よろしいですか。ほかはいかがでしょうか。長澤委員。

(長澤委員)

すみません。内容が私のほうでわからないので教えていただきたいんですが、問8の設問というのは、何を目的に設定された設問なんでしょうか。

(大谷会長)

お願いいたします。

(高山地域課長)

もしあなたが実際にお金を持っていて、それを投資するとしたらということで、どの分野に力を入れていただきたいかといったことを問うものかということで考えております。

(大谷会長)

長澤委員、この説明でいかがですか。

(長澤委員)

個人が持っている 1,000 円というものを活動の分野に、どの分野に投資をしたいですか  
って、皆さんが思っただけなのかということ、どうなんでしょうか、それは各  
皆さんが望んでらっしゃる活動というか、こういう活動をやって、担ってほしいというも  
のにつながっているんでしょうかね。その辺、設問の内容が、私なかなか少し理解ができ  
ないので、申し訳ありません。

(大谷会長)

はい。地域課長さん、お願いいたします。

(高山地域課長)

皆さんのほうから、こういった自分のもし 1,000 円をとということで、こういった分野に  
お金を使って、自分のお金、1,000 円なり、税金なりということになると思うんですが、  
どの分野にお金を使っただけか、皆さんに逆に考えていただくといった意味で、  
こういった設問を設けさせていただきました。

(長澤委員)

これは例えば市が持っている予算等々、こういう分野に使ってほしいという、区民の気  
持ちは何と言うんでしょうか。集約するためのアンケートの設問なんじゃないかな。

(高山地域課長)

そのように考えていただいてよろしいかと思います。

(長澤委員)

この設問では、私自身がなかなかあれなんですけど、うまく区民の皆さんの意見が集約  
できればよろしいですね。

(大谷会長)

1,000 円の寄付というのが、どうもネックになりそうな感じなんですけど、西区自治協議  
会が行うまちづくりの取組について、寄付行為をしたら、どの分野に寄付しますか  
って、何か少し設問の方法を少し変えたらいかがなんでしょうかね。皆さん、どうですか。  
はい、木村委員。

(木村委員)

私もこの8番の質問のところの1,000円が少し引かかったので、この1,000円ではなくて、あなたがもしやってほしい場合はどこの分野ですかみたいな形で、寄付行為があろうかなと思うが、やってほしいことを聞いているのがいいのではないかな。私が勝手に思ったんですけど、この1,000円というのがどうも引かかってきますね。そんな感じです。

寄付のお金をするのではなくて、寄付のお金でやるのではなくて、区の予算等でやるものではないかなと。じゃあ寄付がなければやらないのかみたいな取り方をされても、ちょっとおかしくなるのではないかなと、私が少し変わった考え方でしょうか。そんな感じがしましたので、一言お話しさせていただきました。

(大谷会長)

いろいろ解釈のしようがありますが、それでは区長さん、お願いいたします。

(水野区長)

ご質問ありがとうございます。そもそもの設問の設定が、次期区ビジョンの作成にあたってどのようにやっているかということで、自治協の皆様からご協力いただきながらアンケートを取るという趣旨でございます。皆さんからご指摘あったとおり、自治協が寄付をもらうのかとかということで、主語というのとあと寄付金と、どの分野に力を入れるかという、この3つの観点で、質問のところどうも整理されてないなというふうに考えておりますので、今あったご指摘を踏まえながら、区としてどのように進めていくかという部分をもう少し明確に整理したうえで直させていただきたいと思っております。

(大谷会長)

区長さんのご提案で、皆さん、よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

ほかに質問ございませんでしょうか。少し見えないんですが、はい。

(篠田委員)

篠田です。加野さんがおっしゃったのにちょっとオーバーラップしているんですけど、問10のカテゴリーなんですけど、例えば健康寿命の延伸なんかを高齢者支援になっていまずけれども、国の施策などでは健康寿命の延伸というのは、全世代にあたる。となると、高齢者支援に入れてしまうと非常に限定されてしまうということがありますね。

前にもお話ししたことがあるんですけど、例えば文化スポーツの中にスポーツがありますが、スポーツの定義がちょっと一般的に言われるように考えられると、例えば運動習慣とって、今コロナ禍で非常に子どもの体力低下とか運動習慣。あと中間世代ですね。高齢者、子どもではない世代の健康寿命延伸、健康施策というのに非常に注目されておりますし、それは大きな課題だと思うのですが、これの中になかなか入りづらいと、項目分け

の件で、どのように解釈したらいいのか、少し説明いただけると、ありがたいと思います。

(大谷会長)

ありがとうございました。分野の設定ですよ。

(篠田委員)

はい。

(大谷会長)

14 にこだわることなければ、いろいろ方法があるのだらうと思いますが、いかがでしょうか。

(高山地域課長)

再度私どものほうでも、この細分野につきましては、回答する方が答えやすいような項目を再度検討いたしまして、この事例ですね。そちらのほうを再検討したいと思います。

(大谷会長)

篠田委員、よろしいですか。

ほかにいかがでしょうか。山賀委員。

(山賀委員)

たびたびすみません。今回区ビジョンまちづくり計画策定に関するアンケートで、先ほど2040年をめぐり、バックキャストिंगとあって、未来から今を見て何すべきかという話だと思うんですけども、ですので、この中に、そういったスケジュール感みたいなものっていうか、期間のようなものも入れなくてもいいのかなと思ったんですね。

さっきの間8もそうなんですけれども、例えばこれらの間7でもこれから先、例えば5年間とか計画期間内の期間までに、特に重要なものはどれかとか、あとそれから間8でも、どこにこの数年間の間に一番力を入れるべきかみたいな、ちょっとその辺の期間も入れての重点的な部分というのを聞くのが計画策定に役立つのではないかなと少し思いました。

あともう一つアンケートを送付する。郵送でというお話だったんですけども、3月に卒業された眞柄さんがアートフェスティバルでアンケートをしたときに、自治協のことなんかほとんど知られてないという結果が出たと思うんですよ。ですので、アンケートを送付する際に、自治協のこととか、それから地域で行われている活動とか、そういったことも何か紹介するようなものも一緒に入れて、地域の活動などを知っていただくというようにすることもしてはどうかなと思います。

(大谷会長)

貴重なご意見だと思いますが、2点ございましたので、いかがでしょうか。

(高山地域課長)

今ほどいただきましたご意見ちょっと踏まえて、私どものほうでも、まず頭の文章の部分になろうかと思えますけども、その辺の文言、あとは自治協さんの紹介、そういったものも含めて郵送をさせていただくような方向で検討をさせていただきたいと思えます。

(大谷会長)

いろいろと貴重な意見を寄せていただいておりますが、ほかにございませんか。高橋委員。

(高橋伸絵委員)

高橋です。問8の1,000円のことですごく皆さん気がかりだということを言っていました。若人人には、漠然と何か行政の文書よりも、こうやって1,000円とかとって、どう使う？と言われてると、すごく若人人には、自分のこととして考えるのではないかと思うので、それはとてもいいのではないかというところも一つはあります。それだけです。

(大谷会長)

さあ、どうしましょうか。この1,000円の問題ね。それぞれ英知を結集して、うまくいくように。はい、岩脇委員。

(岩脇委員)

今意見がいろいろあります。これはいいとか悪いとかということは別にしても、やはり目標設定のためにある一定の金額、あなたならどうするか。じゃあその金額設定をしない場合はどうする。それは全て解答がないんですよ。答えはね。だからそのところをどういう形にするかというのは、行政にお任せして、あまり誤解のないような形で、そして設定したほうがいいのではないか。1番気になったのが私個人としては目標が定められていていいのではないかと思うんですけど、これはみんなの意見ですからね。その辺は地域課長と、また行政のほうで、どのような言葉がいいのか、また検討してください。以上です。

(大谷会長)

ありがとうございました。そろそろ次へ進みたいと思えますが、よろしいですか。

続きまして所管課からの報告の(1)西区区ビジョンまちづくり計画第4次実施計画年度末評価についてであります。水野区長より説明をお願いいたします。よろしくお願いたします。

(水野区長)

それでは区ビジョンまちづくり計画の第4次実施計画、年度末評価について、お手元の資料の本日配布の配布資料2に基づいてご説明いたします。それでは着座にて説明いたします。

資料のほうはA3縦のホチキス止めの資料になります。こちらは事前に配布していただいた資料8の西区区ビジョンまちづくり計画、第4次実施計画進行管理表の中から、区民の皆様から参加いただきながら共に取り組んだ事業のうち、主な事業を抜粋したのものになります。

なお、抜粋版に記載した事業の右側に、資料8における掲載ページが記載してあります。それでは1枚目をご覧ください。まず「1 人と人がつながり、安心・安全に暮らせるまち」のうち、「人と人がつながり支えあうまちづくり」の(1)の1、「子育て支援事業」についてです。子育て支援事業では、妊娠期から子育て期の保護者が、孤立せず不安や孤独感が解消され、地域の中で安心して子育てしていけることを目的に、子育て各期に渡る子育て支援講座を、合計20講座開催しました。

アンケート結果から参加者の満足度は高く、「ママ友ができた」「不安が解消された」などの声をいただいております。事業目的を達成できたと考えております。

次に、(2)の5、「西区健康活き活きチャレンジ事業」についてです。「西区健活チャレンジ事業」ではあらゆる世代を対象に、生活習慣病予防と健康増進、健康寿命の延伸を目指して「地域健康リーダー(応援隊)育成講座」、「誰でもどこでも健康教室」、「高齢者体操自主活動サポート事業」を実施しました。令和4年度は若年世代への生活習慣病予防の意識醸成を図るため、特に子育て世代への働きかけに力を入れます。また、「地域健康リーダー育成講座」で育成した応援隊が活動で利用できるチラシを配布するなどの支援を行いました。

評価、達成度は「未達成」ですが、これは新型コロナウイルス感染症対策のため、参加者数の制限や開催を中止したことにより、参加延べ人数が目標値に達しなかったことによるものです。

次に、(3)の3、「高齢者を地域で支える生活支援サービスの創出」についてです。区民の皆様同士の支え合い活動を推進するもので、「住民主体の訪問型生活支援」と「地域の茶の間」の新規・拡充の累計件数と、「支え合いのしくみづくり研修会」や「地域の茶の間交流会」の開催件数を工程・数値目標としています。令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大により一部事業が中止となったことにより、評価、達成度が未達成となりましたが、住民主体のサービス等は累計60件の新規・拡充が図られました。

次に、「安心で安全に暮らせるまちづくり」の(1)の4、「災害時における避難体制づくり」についてです。西区では、区民の皆様と一緒に、それぞれの地域オリジナルとなる「地域の避難マップ」の作成を進めています。これは、地域の皆様とワークショップを行うことで、皆様の防災意識を高めてもらうとともに、地域の皆様が危険だと思う箇所や安全だと思う避難ルートを反映したマップとなっております。これまで災害の種類や対象地域毎に57種類のマップを作成しており、令和4年度も6地域で作成を予定しています。

評価、達成度は「未達成」となっておりますが、これもコロナの関係等でワークショップの中止などで、マップも作成できなかったことによるものです。

次にⅡ 都市と農村が融合するまちのうち、「都市と農村の交流」の（２）の１、「小学校での食育推進事業」についてです。「食」や「農」を通して食育を推進するため、区内全19小学校で「西区一斉いもジェンヌ給食の日」を実施したほか、3年生を対象に「収穫体験」や「料理講座」などを実施しました。

収穫体験では、広大な畑や大根の葉の大きさに驚いたり、家庭に持ち帰ってどのようにして食べたかを学校で嬉しそうに話していたりと、食や農を身近に感じてもらう機会を提供することができました。

1枚おめくりください。「Ⅲ だれもが学び合える学術と文化のまち」のうち、「だれでも学び合える環境づくり」の（１）の１、「家庭教育振興事業」についてです。公民館では、多様な学びの場づくりの一環として、各種家庭教育学級を実施しています。プレママ学級や、乳児期・幼児期・児童期・思春期など、子どもの成長にあわせた講座や、発達障がいに関する講座など、各種講座を実施するとともに、仲間づくりを推進しています。

令和3年度は、区内の4公民館で17事業を実施しました。令和4年度も、家庭における課題解決に向けて、引き続き各種講座を実施します。

次に、（２）の３、「通学路の交通安全対策事業」についてです。西区教育支援センターでは、区内の各小学校の通学路整備に取り組みました。令和3年度は各学校を通じ9校から対策必要箇所の報告を受け、それをもとに新潟西警察署、西区役所建設課および総務課、区教育支援センターが構成員となっている西区通学路安全推進会議を開催しまして、その後、地域の方々と現地を確認する合同点検を実施し、実際に必要となる安全対策を決定いたしました。

次に、「文化の継承・創造とスポーツ振興」の（２）の１、「西区スポーツスマイルプロジェクト」についてです。区民のスポーツ・運動の習慣化に向けたきっかけづくりの提供や、スポーツ・運動の楽しさや喜びを感じてもらい、区民の交流機会を提供しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部事業が実施できず、評価、達成度は「未達成」となっておりますが、参加人数の制限や受付手続きの一部電子化など、感染対策を講じ、実施しました。

実施事業としては、小学生対象の「西区かけっこ教室（春）・（秋）」、小学生対象の「プロアスリート教室」、「ラジオ体操・かんたん体操講習会」、「西区ウオーク」の4事業を実施しました。参加者アンケートでは、また機会があれば参加したいとか、とても気持ちよく参加できたなどと好評をいただいております。今後も感染対策を徹底し、リスク軽減に取り組みながら、体を動かすことの楽しさや、継続したスポーツ活動の機会を提供します。

次に、「Ⅳ 豊かな自然と快適な住環境を大切にすまち」のうち、「自然環境の保全と活用」の（１）の２、「西区一斉クリーンデー」についてです。一斉クリーンデーでは、西区のコミュニティ協議会が主体となり地域の関係団体とともに行う清掃活動となります。

同じ時期に各団体が活動することで、区の一体感を醸成し、環境美化意識の向上を図ります。市では広報活動や集めたごみの回収の手配などの支援を行っています。

平成 21 年度から西区自治協議会の提案事業として始め、着実に参加者も増えておりましたが、令和 3 年度は、コロナウイルスの影響もありまして、目標の参加団体 15 には至らなかったために、評価は「未達成」となりましたが、今後も活動の周知に努め、多くの団体からの参加を呼びかけていきます。

次に、その下の 3、「ボランティア清掃活動への支援」についてです。市では、自治会や民間団体などが行うボランティア清掃活動に使うごみ袋の無料提供やはさみの貸出し、集めたごみの回収の手配などを行っています。西区はボランティア清掃の参加者及び団体数が 8 区の中でもっとも多く、今後も皆さまの活動をサポートできるよう支援していきます。

次に、(5) の 1、「まち歩き・観光ツアー」についてです。地域の魅力の再発見と交流人口の拡大を目的として、コロナ禍においても、感染症対策をとりながら、観光ボランティアガイドの協力により、赤塚・内野・黒埼の各地域で計 6 回のまち歩きを実施しました。参加者アンケートの満足度は 88% でした。

1 枚おめぐりください。「快適な住環境づくり」の (1) の 3、「市民とのみどりと花のまちづくり」についてです。この事業は、公園などの公共施設の緑化を行う団体に花苗などを支給するほか、地元自治会や老人クラブなど、地域の方から公園愛護会を組織していただき、公園の除草や清掃、樹木の育成をはじめ、遊具破損などの異常発生時の通報や、安全な利用の指導といった活動を行っていただいております。公園愛護活動は、公園を愛し美しくする運動を通じ、市民の相互の親睦を深め、健康の増進と明るく豊かな市民生活の形成に寄与するものと認識していますので、本市としても、引き続き地域の皆さまの活動を支援していきます。

次に、(3) の 1、「新潟海岸（関屋分水路～新川）飛砂対策事業」についてです。この事業は、新潟大学や地域住民の皆さま、海岸管理者などと連携し、抜本的な飛砂対策の検討と対策を推進するものです。具体的には、本市が主体となって行う飛砂防止柵設置などとともに、真砂コミュニティ協議会様をはじめとした地域住民の皆様との協働により、海浜植物の植栽を進めていきます。持続的な飛砂対策の取り組みに向けては、地域の方々との協働が必要不可欠であることから、今後とも地域のご協力を得ながら、この施策を推進していきたいと考えております。

次に、「V 地域と区役所が共に歩むまち」のうち、「地域とのさらなる協働の推進」の、(3) の 2、「出動！西区地域盛り上げ隊（中学生みらいデザイン編）」についてです。次代を担う子どもたちが、地域をよりよく知り、地域に関する関心を集めることを目的として、地域の課題解決を考えるワークショップを行います。令和 3 年度は五十嵐中学校の 3 年生が、地元のコミュニティ協議会の役員の方と、「高齢化が進む地域の課題を解決するために、中学生ができること」をテーマにワークショップを行いました。中学生からは「あいさつ&お手伝い大作戦」や「クリーン活動」などのアイデアが出ました。中学生か



らは、地域の方の話が面白く楽しかった、今後は地域行事に積極的に参加したい、などの感想がありました。説明は以上となります。

(大谷会長)

ありがとうございました。ただいま詳細にわたり説明、報告をいただきましたが、質問はございませんでしょうか。

質問ないようですので、その他の(1)副市長との意見交換とさせていただきたいと思えます。このまま進めてよろしいですか。

はい。本日は朝妻副市長様ご同席でありますので、これより意見交換を行いたいと思えます。朝妻副市長さん、よろしくお願ひいたします。

(朝妻副市長)

よろしくお願ひいたします。

(大谷会長)

それではご意見、ご質問のある委員は挙手をお願ひしたいと思います。いかがでしょうか。

それでは先導的な意味で、私がまず質問しますので、引き続いて、皆さんから積極的に質問を寄せていただきたいと思います。

私、大谷一男と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。新潟市の予算についてお伺ひしたいと思います。西区の予算額は37億7,000万円。新潟市全体の予算は3,924億円と説明を受けて、承知をしております。そこで身近なところなんです、主要地方道、新潟燕線の黒鳥バイパスと小新からアピタまでの都市計画道路、小新亀貝線のそれぞれ用地買収が進んでいるようですが、用地買収予算は新潟市予算のどの項目に計上されているのか、お伺ひしたいと思います。

また私どもはいったい幾らの予算額が計上されているのか、詳しく知らされておられないので、予算額を承知する方法など、差し支えなければお伺ひしたいと思います。いかがでしょうか。

(朝妻副市長)

まず道路事業の用地買収についてですけれども、市の歳出予算は幾つかの段階的な区分がございます、道路ですと土木費という所に入ります。その中で、いわゆる都市計画事業としての財務事業なのか、道路事業なのかということで分かれていたりしまして、予算説明書がございますけれども、右側の事業名を書く欄に路線名なりが出てくるイメージで想像していただければいいと思うんですけど、一番小さな予算の区分は28節という節で区分されておまして、土地買収費、土地を買う金は、公有財産購入費というところで計上されておまして、そこは各事業みんな一緒になっておまして、何億円というのは基

本的には全市のものがどんと1本に載っていたりするということですので、ご指摘のあった路線の、例えば買収費が幾らかというのは、そこを見ても確かに分からないということになります。

お話があったように、各区の予算を可能な限り分かりやすくそれぞれの事業に分配をして、お示しするという事は大事な事なんだろうなと思っております。

区で分けられる金と分けられない金というのがあるというのも事実ですので、その辺はまた工夫が必要だとは思いますが、まあ当初予算編成にあたって頂戴したご意見を参考にして、区役所と相談しながら研究したいと思っております。よろしくお願ひします。

(大谷会長)

ありがとうございました。それでは具体的に区のほうに質問したほうがいいですかね。いったい幾らの予算額が付いているのかという話の場合ですね。

今でなくても結構なんですけど、後日で質問しますので、教えていただけますか。

(渡辺建設課長)

今ちょっと予算の手持ちがないので、後日お示ししたいと思っておりますけど、よろしいでしょうか。

(大谷会長)

わかりました。そうすると西区の37億7,000万円の中に、先ほど私が質問を申し上げました黒鳥バイパスと小新亀貝線の用地買収費はそこに入っているのでしょうか。

(渡辺建設課長)

いや、入っておりません。

(大谷会長)

そうですね。

(水野区長)

予算編成前提というので、まず区が直接執行する予算というのは、区の直接配当があります。今言った、入っていないというのは、本庁の予算がありましてそれを再配当を受けて、区が執行するという場合には、先ほどの37億に含まれない形になります。なので、実際は37億以上の事業費というのを西区では持っています。その部分がなかなか見えにくいということで、そこが先ほど副市長が言ったとおり、どういう方向がいいのかというのを今後検討していければと考えています。

(大谷会長)

わかりました。私と同じような素朴な思いをしている方、直接教えてくださいと言えば、教えてくださいますね。別に秘密事項でもないんだということですね。わかりました。何となく仕組みが複雑ですが、わかったような気がいたします。

他に何か質問。せっかく副市長様同席しておりますので、何でも結構です。長澤委員。今マイク持ってまいります。

(長澤委員)

ちょうど大谷会長から道路のお話が少し出ましたので、交通体系についてお伺いします。もう皆さんもご存じのように、バス路線が赤字という名目で、幹線を除いた地方の線がどんどんなくなっている。または減便をしているという状況があります。新潟市は新しい都市交通網として、バスを活用した交通網を構築しているという目標を掲げていらっしゃるが、それが状況がいろいろ変わる中で、恐らくいろいろな施策の転換を図られているんだと思うんですが、そういう構想に代わる新しい交通体系をどのように考えていらっしゃるのか。亀田とかあそこら辺の地域のいろいろな方に伺うと、モノレールを通してほしいとか、あるいは新しい交通網を整備してほしいというお話も聞きますけれども、具体的にどのような方向性か、やる、やらないは別問題として、こういう構想があるんだというところをお聞かせいただければと思います。

(朝妻副市長)

参考までに少しお話しさせていただきますけど、先週、指定都市の市長会という会議が東京でありまして、幾つか部会がつくられたんですけど、うちは公共交通まちづくり部会という所に入っております。部会の構成メンバーは、広島・神戸・熊本、それからうちの4市です。

その中で共通していたのは、公共交通網に対する危機感とかですね。それは神戸でも同じで、今ご指摘があったように、周辺の所が切られて行くという中で、今後いわゆる公として、インフラなわけですので、地方の財源だけでちょっと無理だと思いますけれども、維持させていくというそういう仕組みは不可欠なんではないのかというお話がございました。

そういうことに向けて、国でそういう方向で検討を進めていくとなんですけど、やっぱり地域によって実情がずいぶん違うので、びっくりしたのは熊本は実はバスですけども、ピーク時に比べて乗降客数が4分の1になったんです。4分の1減ったのではなくて、4分の1になったんだそうです。

そうするとどうしているかということ、自動車交通に対する依存が高まって、あちこちで渋滞が起きている。道路をどうするんだという問題になっていると。一般的に想像すると、熊本がそういう状況になっているというのはなかなか想像できませんけど、実態としてはそうなんです。そういうことも含めて公共交通のあり方をこれからどうするかというのは、各市、政令市の中でも都市部いろいろ違いますけれども共通の課題なんだ

なというのを改めて思ったところです。

おっしゃるとおり、うちのバス交通は採算性の問題があって、利用の少ない所は減便が続いていくという流れになると思うんですけれども、今の形でもって交通体系を維持し続けるというのは恐らく不可能で、何らかの代替の手段をやらなければならないだろうと。バスではなくて乗り合いのタクシーみたいな形でやるとかという社会実験をやったりしていますので、最初に申し上げた、さっきもご指摘がありましたけど、バックキャストिंगということから考えれば、2040年の公共交通の状況はどうなっているのかというのを想像すれば、今この8年間の総合計画を作るときに描いておかなきゃいけないことはありますよねっていうのは、そう思います。それに向けて、今後議論していきたいと思います。

(大谷会長)

ありがとうございました。長澤委員、よろしいですか。ほかに。高橋委員。

(高橋伸絵委員)

よろしくをお願いします。私先日南区のほうに避難所開設のお手伝いをしてくださいということで、ちょっと行きました。西区は私たちの声をすごく取り入れてくださって、安心・安全係、総務課が拠点備蓄からそれぞれの指定避難所にちゃんと備蓄をしてくださることが可能になりました。いろいろご苦労いただいて、それぞれ学校にも備蓄がだいぶ増えました。ちゃんとその施設ごとに備蓄されていますが、南区は一切拠点備蓄で、学校にも全然備蓄がないということを知りましてびっくりしました。

同じ新潟市でありながら、これだけ差があるものかと思ってびっくりしたので、いい所は各区みんな同じようにしていただけるとありがたいと思います。声が上がらないから何も手を付けないではなく、いいと思った所は、西区のこの良さを、ほかの区でも生かしていただければと思います。それを副市長にお伝えしたいと思いました。以上です。

(朝妻副市長)

ありがとうございます。すみません。南区の状況を存じ上げていなかったもので、確認したうえで、まずなぜそうなっているのかというのが確かにあると思いますので、基本的なことは各区共通の対応をするということが原則だと思いますので、対応させていただきたいと思います。

(高橋伸絵委員)

お願いします。

(大谷会長)

水野区長さん、前任が南区ですので。不思議な感じがしますけども。

(水野区長)

私は逆に西区に来て分散備蓄が進んでいてびっくりしたんですけども、それぞれメリット、デメリット、地域の事情によって違うのかなというのが一つあるかと思います。まず拠点備蓄ですと、倉庫の中に大量に置けるということで、発生したら、それをすぐに各避難所のほうに配送していくというやり方を南区では取っていました。ただ一カ所に集約したときに、一カ所がもし何かあると、まあいろいろ被害がいつちやうと、なかなか避難所に持って行くのに時間がかかるなというのがありますので、やはり分散とあと拠点の部分、組み合わせたりとか、あと南区が進んでいないというのは、公共施設の数はあるのですが規模的に小さいというのもあって、それで置けるスペースがなかなか苦慮しているという点もあって進んでないのかなというのがありました。ありますよと言っていましたか。

(高橋伸絵委員)

南区は学校はちゃんとしっかりありますけど、生徒数は少ないので拠点と。

(大谷会長)

マイク使いますか。

(高橋伸絵委員)

はい。すみません。

備蓄するお部屋はたくさん準備されているようです。西区は本当にめいいっぱいのをいろいろ学校側などが苦慮いただいて、空けていただいて、備蓄の部屋を作らせていただいて、またそこに棚をしっかりと総務課が備えてくださって、すばらしい備蓄庫ができておりますので、南区に行ったときは、本当に学校にないと言ったときにはびっくりしたんです。こないだ青山のちょっと濁り水的时候は、備蓄した水を子どもたちが使ったということを書いていましたので、災害でなくても、そういう場面もあるので、やはりある程度の拠点備蓄から分散備蓄、市のほうでみんな一斉にする必要もあるのではないかとご提案します。

南区だけではなく、ほかの所はまだあと6区ありますが、どんなふうになっているかはわかりませんが、市がみんな同じようにいい所はまねし合っていくのがいいのではないかと副市長に提案いたしました。失礼します。

(大谷会長)

ほかに。岩脇委員。少しお待ちください。

(岩脇委員)

岩脇と申します。少しお尋ねします。西区においての小学校の統廃合の件ですけど、教育委員会がかんでおりますし、文科省がかんでおりますから、今日言って明日という問題

ではございません。数年前からそういう複式学級が結構農村部にあるんです。そうするとその保護者の皆さん方が「そっち通いに行きたいな」と言うんだけど、これはあくまでも地域住民の同意がないと統廃合は難しいという、国の方向性が決められておるんで、やはり保護者としてみれば複式学級よりは皆一緒にクラブもできたり遊んだりできると、そういったのが若い保護者の人たちが望んでおる。ただ地域の住民の皆さん方は、やはり神社とかお寺とかがこと聖域ですから、そういういろいろ意見の相違が見られるんですけどね。

私はなぜこんなことを言いますと、やはりそういった所に住んでおられる若い世代ですね。今度流入してほかへきちゃうんですよね。だからそれは今日明日の問題ではございません。赤塚方面では、ちょっと方向性が、何年後に何とかしたいという方向性は聞いておりますけど、西区においても皆さん方は複式学級やっているというのは想像に絶すると思っておりますけどね。数年前からそういう現象が起きておりますんで、これはよく地域住民が声を出せないような状況になっておるんですけど、若い人たちは非常に学歴の問題と人口がそういう何と言うかな。所へ流入するということがいわれております。

特に私が聞いた範囲によりますと、東区からは西区へ相当流入しておるといふ、これは噂の段階ですけど聞いておりますんでね。そうすると、あとどうしてもそちらのほうで過疎化になってしまいますね。それを市がどういう対応をしておるのか、私、重々聞いております。が、個人の考えですからね。それらのことも若いママさんというか、保護者の方の意見も聞いて、ある程度の方向性を市のほうであるべき姿を示したほうが、若い人たちにとってはありがたいんじゃないかなって、私はそう考えました。

ということは、私の所は小針なんですけどね。小針を中心にして西区は北陸4県でその学校が出てくるんですよ。要は「評価委員長」の中にね。学校が出てきていますね。そうするとどうしてもそういうふうなメディア等々でやっちゃうので、そういう所にみんな集中してしまう。じゃあ抜けたエリアはどうするのかと、「過疎化の現象」と著しくなると、今度高齢化の対策等々があるんでね。かと言って全部が全部うまくいくとは思っておりません。ある一定のご理解を、協力を賜るような方向性を、もうぼちぼち示したほうがいいんじゃないかな、なんて私は個人的には思いますけどね。結論は出ませんがね。そういう方向の若いママさんが結構いるということを入れたら、政策の段階でね。ということでございます。以上です。

(大谷会長)

ただいまのご質問に対する副市長さんの見解。お願いいたします。

(朝妻副市長)

ありがとうございました。子どもたちに対する教育条件という意味では、やっぱり学校には小学校は小学校、中学校は中学校の適正規模というのはやっぱりあるんだろうなとは思っています。

それから今もう一個、いわゆるまちづくりというか、都市政策というのは、どこにお住まいになるかというのは、そこの絡みも若干ありますので、今年は都市マスタープランの改定の年度ということですので、いわゆる線引きの議論がこれから本格化していきます。その中で農村集落の活性化という観点もあつたりしますので、そういう意味で、ちょっと遠いあれかもしれませんが、複式学級を回避できるんじゃないかと、そういう希望を持っておられるようなところもあるようにお聞きもしております。

ただ全体的に見ると、明らかに子どもの数が減っていく中で、一部の地域の学校だけが児童生徒数が増えてしまって、プレハブ対応ですとか、ひよっとしたら分離しなきゃいけないのではないかというようなことが起きている、何と言うか、バランスの悪さというか、それは少し感じておりますので、ただそれはいわゆる開発との関係というのもございますので、まちづくりも含めて議論していきたいなと思います。

(大谷会長)

ほかにいかがでしょうか。

(西山委員)

公募委員の西山と申します。私は現役の医師なんですけれども、副市長さんに聞きたいのは、地域包括ケアシステムについてお伺いしたいと。新潟市医師会とそれから市の健康福祉課主催で、昨年度からSWANネットという患者さんの医療情報を共有できるようなシステムを導入するというので、西区もそのモデルとしてやりたいという話を伺っています。1年前、私ども説明を受けて、箱ものはできていて、それは渡されていて、ここに情報を書いてくれとは言うんですけども、そこに情報を書くのはどなたなのか分かりませんし、私ども忙しいので、そんなことはできないわけですが。

それよりも何よりも、そういった箱ものだけついたり、制度をつくっても、現実的には地域包括ケアシステムは全く動いていない。西区は非常に住みやすい地域なんですけど、私ここの西区の病院に働いて、この5年間ぐらいの間にどんどん、だんだん高齢者の一人暮らし、それから8050、独身の方が高齢者を介護していると。福祉と全く結び付かないような状態で見つかって救急車で来る人がどんどん増えています。

このままでは本当に、そっちのほうで、コロナだけではなくて、そういうことでやっばり医療も崩壊するんじゃないかという、大変私危惧しています。

先日もちょっと報道には載ってませんが。例えばご夫婦で住んでいて、実は4日ぐらい前に奥さん亡くなられたんですけども、旦那さんが認知症でわからなかったと。たまたま見つかったら死んでいたということで、そういう状態で見つかったりとか、本当に後を絶たなくそういうことが出てくるんですが、住みやすいまちといわれている西区で、私たちが高齢者に対する問題について、包括ケアシステムという名前だけ言っていますけども、どのように行政としてそれを扱ってくるのかということ副市長さんからお聞きしたいと思うんです。

(朝妻副市長)

ありがとうございました。今総合計画の議論の中でやっているのは、それぞれ高齢・障がい・介護、それぞれの制度があるわけですが、今現実的に起きているのは、そういう分野ごとの制度の隙間に落ちてしまうようなケース、そういうものが結構ありますよねということで、よくいわれるように、重層的な支援の体制をつくらなきゃいけないということで、その取り組みを進めていく必要があるのだろうということで議論をしています。

おっしゃるようないろいろ理想的には支え合いの仕組みとかというのはありますけれども、それを実態としてというか、実効的なものにできるかどうかというのは、極めて大事なことだと思うんですね。それはもう本当に実践の中からでしか担保されないというか、そういう気がとてもしています。

まさに本当に行政じゃなくて、地域だけじゃなくて、地域の力全体が問われているとそういうことなんだろうなというふうに思っています。

お尋ねのことに関しての明確なお答えは、今すぐにできませんが、そういう観点で、何を成すべきなのかということは、先ほどから繰り返し言っていますけれども、2040年とかという、その想像力を働かせると、そういう対応というのはもう不可欠なんだろうなと思いますので、何とか方向感を定められるように検討していきたいと思います。すみません。

(大谷会長)

ありがとうございました。西山委員、よろしいですか。

ほかいかがでしょうか。

なければ、よろしいですか。じゃあこの辺で意見交換の時間は閉じたいと思います。よろしいですか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

(大谷会長)

朝妻副市長様、ありがとうございました。

その他の委員の皆さんのほうからお知らせはございませんでしょうか。それでは最後に事務局からの連絡お願いいたします。

(伊藤補佐)

では次回会議の開催日について、ご連絡させていただきます。本日お配りしましたお手元のA4資料「令和4年度西区自治協議会開催予定」をご覧ください。次回第3回自治協議会は6月29日、午後3時からです。会場は本日と同じ黒埼市民会館、ホールの予定です。会議の議題と詳細につきましては運営会議と調整させていただき、改めて皆様にご案内させていただきます。



続きまして、先ほど長澤広報特別部長からもお知らせがありましたが、5月24日に皆様に郵送しておりました自治協議会広報紙「西区を豊かに」のアンケートをまだご提出いただけていない方がいらっしゃいましたら、お帰りの際に出口に回収ボックスを設けておりますので、そちらに入れてお帰りいただきたいと思います。こちらはお願いとなります。

また最後に委員のご活躍されている姿を見られるという情報提供がございました。本日のNHK新潟ニュース610、5月31日、6時10分からのニュース企画として、題名、出張、『ちょこっと防災 そなえドキ 「地域の防災士に聞く」』というニュース企画のコーナーに高橋伸絵副会長がご出演されるということでございますので、ぜひ皆様ご覧いただきたいと思います。

あわせて6月9日、これもニュース610でよろしいですかね。

(「はい」と呼ぶ者あり)

(伊藤補佐)

同じくNHK新潟ニュース610、6月9日にもご出演されるということなので、皆様、お見逃しないようにご覧いただきたいと思います。

では先ほど、申し訳ございません。アンケート本日お持ちでない方がいらっしゃいましたら、6月2日までにメールまたはファックス等で事務局までお送りいただきたいと思っております。事務局からは以上でございます。

(大谷会長)

以上ですね。よろしいですね。

(伊藤補佐)

はい。

(大谷会長)

じゃあ皆さん今日はせつかくの情報ですので、お見逃しのないように。

(高橋伸絵委員)

お恥ずかしいです。

(大谷会長)

大変ありがとうございました。それでは以上で令和4年度第2回の自治協議会を閉会とさせていただきます。ご苦勞様でした。ありがとうございました。

(終了)